

情報公開解禁日は設定しておりません
本情報はすぐにご利用いただけます

令和2年10月30日

「創薬バイオインフォマティクス分野」における
国立遺伝学研究所と旭化成ファーマ株式会社との
包括的連携協定および共同研究部門設置契約の締結について
～遺伝学の中核拠点×研究開発型スペシャリティファーマイノベーション創出を目指して～

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所(所在地:静岡県三島市 所長:花岡文雄 以下、「遺伝研」と、旭化成ファーマ株式会社(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:青木 喜和 以下、「旭化成ファーマ」)は、この度、「創薬バイオインフォマティクス」分野での包括連携活動に関する協定を締結し、遺伝研内に共同研究部門を設置することに合意しましたのでお知らせいたします。

本包括的連携では、生命システムの解明を目指す遺伝研と、新薬創出を目指す旭化成ファーマ、双方が培ってきた強みであるゲノミクス・インフォマティクス基盤と創薬基盤を融合させることで、遺伝子情報を中心とした疾患メカニズム解明手法の発展、創薬研究のイノベーション創出を目指します。

連携では、遺伝研内に「創薬バイオインフォマティクス」研究部門を設置。個別のテーマに基づいた共同研究を進めると共に、旭化成ファーマが独自に進めるテーマに、遺伝研が保有するバイオインフォマティクス分野における専門的な知見や技術を用いて協力します。

最新の次世代シーケンサーやスーパーコンピュータを用いたマイクロバイーム解析、ゲノム解析等に関する研究相談、OJT等を通じて、遺伝学／情報学を駆使できる企業研究者、創薬を理解できるアカデミア研究者など、次世代を支える人材育成にも注力します。

また、双方の研究者が自由に交流し、相互理解を深め、研究の効率化、新たな共同研究につながるアイデアを活発に議論し、発展させていく環境づくりを目指します。

本包括的連携によって、遺伝研、旭化成ファーマは、生命科学の発展、我が国発の画期的な新薬創出を目指し、学術及び産業技術の振興に貢献してまいります。

【協定及び契約発効日】 令和2年10月1日(木)

旭化成ファーマ株式会社 HPはこちら <https://www.asahikasei-pharma.co.jp/>



■ 問い合わせ先

- 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 産学連携・知的財産室